

古道に親しむ 古道を楽しむ



いざ鎌倉街道

・上道

かみつみち

鎌倉街道上道の遺構（毛呂山町大類地区）

鎌倉街道は、中世、鎌倉から関東諸国あるいは遠く信濃・越後・奥州方面に通じた主要な街道で、鎌倉幕府がその権力を支える政治的道路となるように整備したものとされています。御家人たちを鎌倉へ参集させる軍事的道路でもあり、街道沿線では幾多の合戦が繰り広げられました。埼玉県内を通る鎌倉街道は、県東部の川口市からさいたま市岩槻区付近を経て茨城県古河市方面に向かう「中道」と、県西部の台地・丘陵地帯を抜けて本庄市児玉から群馬県藤岡市方面に向かう「上道」が有名で、ほかに「秩父道」といったような間道や支道もありました。

毛呂山町にも、当時この「上道」が通っており、町東部を南北につないでいました。今でも大類地区から市場地区にかけて、鎌倉街道の遺構が残っています。鎌倉時代の史書である『吾妻鏡』によると毛呂郷の鎌倉御家人毛呂季光は、鎌倉大火の翌日、鎌倉街道を通り、真っ先に鎌倉へ駆けつけたとされています。鎌倉武士にとっこの道はまさに「いざ鎌倉」の道だったようです。

また、鎌倉街道筋には、中世の文書などから、河川の渡河地点など交通の要衝に「宿」が存在したことが明らかですが、毛呂山町にも「苦林宿」があったことが史料から確認されています。そして大類グラウンドの下に眠る堂山下遺跡こそ、この苦林宿に相当するのではないかと一見解が出されています。

毛呂山町内だけを見ても、その沿線に分布している古戦場跡や集落・寺院跡、そして「市場」という大字名などからも、この街道が中世の主要な軍事道路として機能し、また、仏教文化の伝播や経済流通などにも大きな役割を果たしていたのではないかと一見解が想像できます。

今回の特集では、この「鎌倉街道・上道」をいくつかのキーワードに分け、町内の史跡だけではなく、街道全体の史跡や遺構などを紹介したいと思います。



古道に親しむ 古道を楽しむ
いざ鎌倉街道・上道

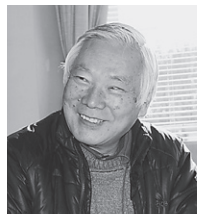
Keyword I



-TSUWAMONO-

1. 季光公之碑 (毛呂山町大字大谷木)
2. 畠山重忠公像 (嵐山町)
3. 新田義貞公之像 (東京都府中市)
4. 足利基氏の墓跡 (東松山市)
5. 征夷大将軍足利尊氏公像 (栃木県足利市)

INTERVIEW



古道を楽しむ会
山田 秀明さん

鎌倉街道上道に関する武将を調べると、多少時代の前後はありますが、皆さんがよくご存知の名前がたくさんでてきます。街道を巡るときには、実際に武将たちが通った古の時代をイメージしながら歩くと、とても楽しいと思います。



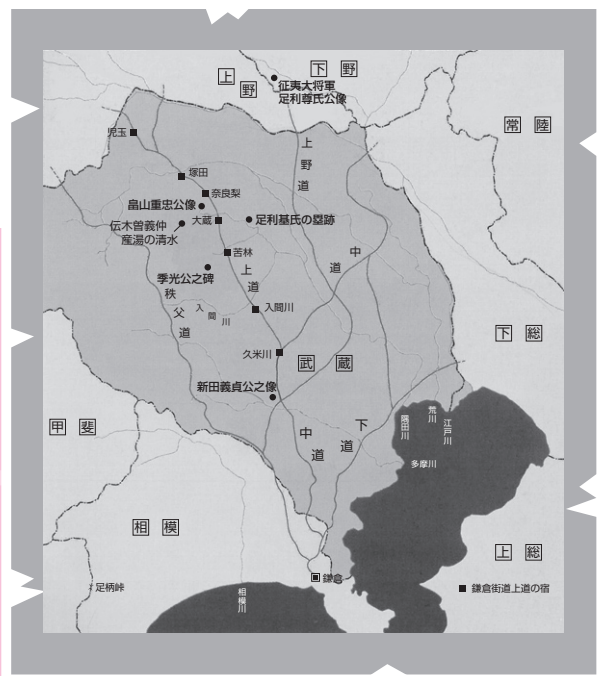
鎌倉街道が本格的に整備されたのは鎌倉時代ですが、街道の整備に伴い、様々な人がこの街道を往来しました。教科書やテレビドラマなどでなじみのある武将たちも、この街道で鎌倉を往来しています。

毛呂山町にゆかりのある武将毛呂季光(写真1)もまた然りで、1191(建久2)年に鎌倉で大火が起ると、鎌倉街道を通り、翌日には鎌倉まで馳せ参じています。

畠山重忠(写真2)も鎌倉時代の有名な武将です。源頼朝に仕えた重忠は、旧川本町(現深谷市)に生まれ、街道からほど近い嵐山町の菅谷館にも居を構えていました。新田義貞(写真3)は、鎌倉幕府を滅ぼした武将で、鎌倉を攻める際には鎌倉街道上道を南下しています。足利基氏(写真4)は、室町幕府を興した足利尊氏(写真5)の子で鎌倉公方を務めた武将です。基氏は、幕府が京都に移った後の関東地方の統治を任せられ、室町幕府の関東における基盤を築きました。また基氏は、苦林野で合戦をした武将として、毛呂山町にもゆかりがあります。

鎌倉街道は時代を築いた武将たちが往来した街道でもありました。街道沿いにはそのような武将の像などが建てられている場所もあります。古の武将に思いを馳せながら、史跡巡りをするのもおもしろいと思います。

武将への思いを馳せる



でんきそよしなかうぶゆ しみず
伝木曾義仲産湯の清水 (嵐山町)

嵐山町北部にある鎌形八幡神社には、木曾義仲が産湯に浸かったと伝えられている清水があります。義仲は、父義賢の館であった大蔵館に近い鎌形の地内で生まれたと伝えられています。

武将像・碑

古道に親しむ 古道を楽しむ
いざ鎌倉街道・上道

Keyword II

宿 SYUKU-



1. 国分寺跡 (東京都国分寺市) 2. 国分尼寺跡 (東京都国分寺市) 3. 小野路宿 (東京都町田市) 4. 武蔵国衙跡 (東京都府中市)
5. 苦林宿の跡といわれる堂山下遺跡 (毛呂山町大字大類) 6~9 比企城館跡群



史跡は最高の学びの資料

街道沿いには、建物遺構や当時を偲ばせる城館跡などが数多く保存されています。

まず規模の上で大きなものが東京都国分寺市の武蔵国分寺跡・国分尼寺跡(写真1・2)です。武蔵国分寺は、741(天平13)年に聖武天皇の勅願によって国ごとに建立された寺院ですが、1333(元弘3)年、新田義貞軍が鎌倉幕府軍と戦った分倍河原の合戦の際に焼失したとされています。現在は、基礎部分の一部分が残されていますが、市街地に存在する広大な跡地には圧倒されるものがあります。

また国分寺市の南、府中市には武蔵国府が存在しました。武蔵国府は、奈良時代の初めごろから平安時代の中ごろにかけて、武蔵国を治めた役所が置かれたところです。平成21年に国史跡に指定された武蔵国府跡には、史跡として整備が行われた武蔵国衙跡(写真4)や大國魂神社などがあり古の時代への思いが広がります。

鎌倉街道沿いには建物遺構のほか、宿の跡も残されています。今でも宿の面影を感じさせるのが小野路宿(写真3)です。小野路宿は、鎌倉街道の宿駅としておこった後、後北条氏の街道の要衝として栄え、江戸時代には大山詣の人びとで賑わった宿で、現在でも風情ある町並みを見ることが出来ます。

武蔵国分寺跡の近くには、「武蔵国分寺跡資料館」、武蔵国府跡の敷地内には、「ふるさ



・杉山城跡 (嵐山町)
鎌倉街道を見下ろす山の頂につくられた杉山城は、戦国時代の山城で、城跡が今日までほとんど無傷で残された関東屈指の名城です。



・松山城跡 (吉見町)
松山城は、比企丘陵の先端に築かれた山城で、室町時代から戦国時代にかけての関東地方で重要な拠点となった城のひとつでした。



・菅谷館(城)跡 (嵐山町)
菅谷館(城)跡は、畠山重忠の館跡と考えられていますが、現在は戦国時代の城跡として、築城技法を随所に見ることができます。

コラム

崇徳寺跡



川角地区に崇徳寺跡といわれている所があります。1156(保元元)年の保元の乱で敗れ、讃岐国(現在の香川県)に流されて亡くなった崇徳上皇の近臣がこの地に隠れ住み、上皇の霊を吊ったところと伝わっています。現在確認される一辺が20メートルほどの土塁に囲まれた平坦部が、



当時の寺院跡だと考えられ、苦林宿跡といわれる堂山下遺跡に接しています。

崇徳寺跡の調査は、これまで昭和37年度・63年度・平成15年度に実施され、様々な物が出土しています。そして平成24年度に実施された調査では、建武2(1335)年銘の長さ2メートル近い板碑(写真上)が出土したほか、板碑を集めて埋めた場所(写真左上)がありました。また、丸瓦2点がほぼ壊れていない状態で出土しました。

瓦が出土したことは、建物の存在を示唆していますが、建物跡の検出が今後の課題とされています。

INTERVIEW



古道を楽しむ会
古澤 洋水さん

私の場合、宿や城跡、史跡など訪れる前には、少しの知識を得てから歩くようにしています。訪れた場所の歴史的背景や人物の関係がわかり、更に深く楽しむことができると言うからです。知識があると仲間同士でも話ができ、楽しさが増します。

と府中歴史館」、小野路宿には、「小野路宿里山交流館」があり、歴史や文化を学ぶことができます。

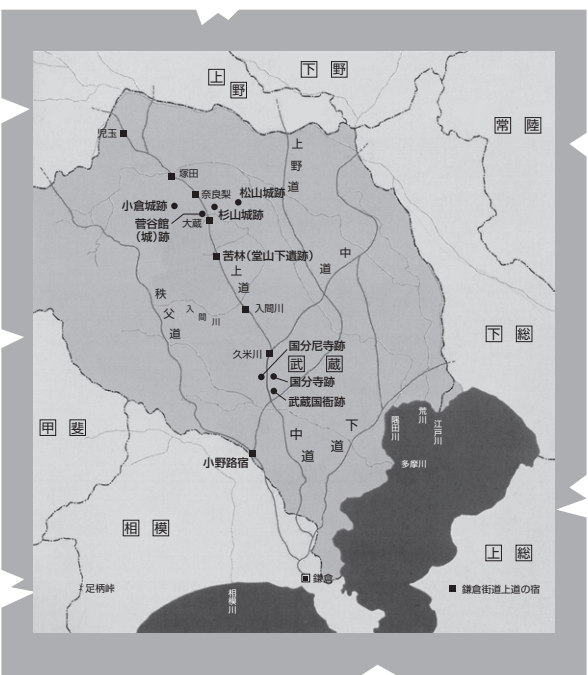
毛呂山町には、苦林宿があったとされています。大類グラウンドの敷地内に堂山下遺跡を説明する看板(写真5)がありますが、大類グラウンドから県立毛呂山特別支援学校一帯が苦林宿の跡だとされています。

城跡からの眺めは絶景

比企郡には、鎌倉街道を囲むように城館跡が残されています。なかでも、吉見町の松山城跡(写真6)、嵐山町の杉山城跡(写真7)、菅谷館(城)跡(写真8)、ときがわ町の小倉城跡(写真9)は、保存状態が良好であったため、比企城館跡群として、平成20年に国指定の史跡となりました。いずれの城館跡も室町時代から戦国時代にかけて造られた

ものですが、それまで野戦として行われていた戦いが、城や館を中心とした合戦へと移り変わっていく過渡期のものとして貴重な史跡とされています。

松山城跡・杉山城跡・小倉城跡は小高い山にあり、登るのに多少の労苦を伴いますが、城の頂からの眺望は一見の価値があります。



・小倉城跡(ときがわ町)

小倉城跡は、戦国時代の山城跡で、一部立ち入り禁止箇所があるものの、現在も当時の石垣跡などを見ることができます。

史跡・城館跡



古道に親しむ 古道を楽しむ
いざ鎌倉街道・上道

Keyword III

道 -MICHI-

1. 笛吹峠 (嵐山町・鳩山町)
2. 大仏の街道遺構 (美里町)
3. 市民の森のなかを通る鎌倉街道堀兼道 (川越市)
4. 伝鎌倉街道 (東京都国分寺市)
5. 七国山鎌倉街道遺構 (東京都町田市)



独特な雰囲気ひたに浸る

現在の鎌倉街道は、区画整理などで消失してしまっているところや拡幅などをして、現代も道路として使用されているところが多く、当時の面影を偲ぶことは難しくなっています。

埼玉県内の鎌倉街道の跡としては、嵐山町と鳩山町の境にある笛吹峠(写真1)や、美里町にある大仏の街道遺構(写真2)が知られています。笛吹峠は、1352(正平7)年、小手指ヶ原の戦いで敗れた新田義貞の子義宗が足利尊氏と戦うために陣を敷いたとされています。そして、大仏の街道遺構は、住宅地の脇に取り残されたように存在する街道の跡です。

また、鎌倉街道上道の本道からそれた支道である堀兼道にも街道遺構が残されています。堀兼道は、所沢市の新所沢付近で上道と分岐し、川越方面へと向う道です。川越市名細にある、「川越市民の森」のなかに堀兼道の遺構と伝えられる道が残されています(写真3)。また、狭山市の堀兼道沿いにある堀兼神社には、古くから史跡として有名であった堀兼の井(写真7)が残されています。東京より南に残された街道遺構は少ないのですが、山頂の切通し付近に鎌倉井



・鎌倉井戸 (東京都町田市)

鎌倉井戸は新田義貞が鎌倉攻めの途中、井戸を掘り湧き出た水を軍馬に与えたといわれています。現在、井戸の形はありますが、水は出ていません。



歴史の道百選



伊勢根地区の鎌倉街道遺構 (小川町)

平成8年、選定委員会の検討を踏まえ、文化庁は、78か所の街道などを『歴史の道百選』として、選定しました。『歴史の道百選』は、文化庁がこれまでに進めていた調査や整備・活用事業の実績を踏まえて、より一層、「歴史の道」として、地域の文化財への国民の関心と理解を深めることを目的に、都道府県教育委員会の協力により、全国各地の最もすぐれた「歴史の道」を選定委員会で厳選したものです。

この78か所は、主に明治時代まで活用された街道・運河などの交通遺跡を選定しており、今後追加をしていく予定です。

この「歴史の道百選」には、寄居町から小川町まで、および毛呂山町の鎌倉街道上道の遺構も含まれており、鎌倉街道上道は、文化庁からも貴重な文化財として認められた道となっています。

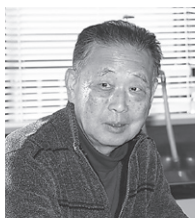
【選定されたほかの歴史の道(抜粋)】

- ・陸奥上街道 (宮城県)
- ・日光杉並木街道 (栃木県)
- ・富士吉田口登山道 (山梨県)
- ・野麦道 (長野県)
- ・熊野参詣道 (三重県・和歌山県)
- ・石見銀山街道 (島根県)
- ・秋往還 (山口県)
- ・薩摩・肥後街道 (熊本県・鹿児島県)



市場地区の鎌倉街道遺跡 (毛呂山町)

INTERVIEW



古道を楽しむ会
磯島 道治さん

鎌倉街道は、主に御家人が鎌倉へと向うために整備されたものですが、武士のほかにもさまざまな人が往来していたと考えられます。沿道の各地で出土したものには、当時の人びとの生活をうかがうことができる甕などもあり、貴重な資料として資料館などで展示されています。

雰囲気そのまま伝える道

小川町の伊勢根地区に残る鎌倉街道遺構と毛呂山町の市場地区に残る鎌倉街道遺跡は、かなり良好な状態で保存されていた遺構です。これらの遺構は、専門的な発掘調査が行われ、当時の掘割の様子が発見されています。これらの遺構は、学術的にも貴重な遺構であるといわれています。

土地の開発や道路の整備などで保護や保存が難しく、現在も残存している場所が少ない街道遺構ですが、当時の雰囲気を感じるには最も適しているといえます。残された街道の遺構を尋ね、往時の独特な雰囲気を感じてみてはいかがでしょうか。

戸(写真①)のある七国山の鎌倉街道遺構(写真②)や現在は道に特殊な舗装がされていますが、国分尼寺跡の近くに約200メートルほど存在する伝鎌倉街道(写真④)でも街道の雰囲気を感ずることが出来ます。



おちやちや
・於茶々の井戸 (深谷市)

荒川は、街道上でも屈指の要衝。荒川の左岸には、鎌倉街道が通っていたと伝えられる場所に井戸の遺構が残されています。



ほりがね
・堀兼の井 (狭山市)

堀兼神社の境内に石柵で囲まれた状態で井戸が残っています。分倍原で敗れた新田軍が鎌倉街道の支道である堀兼道を通りこの地まで退却しました。

街道遺構

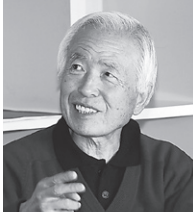


古道に親しむ 古道を楽しむ
いざ鎌倉街道・上道

Keyword IV

戦 -IKUSA-

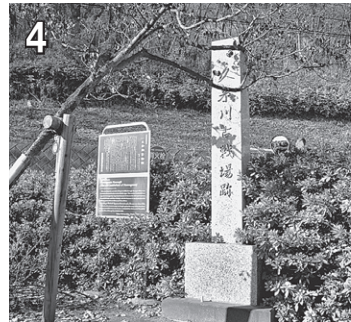
INTERVIEW



古道を楽しむ会
かい ひろかず
甲斐 紘一さん

史跡のなかでも古戦場は、歴史書や地図で確認しただけでは、どうしても分からないことが多くあります。しかし、実際に現地を確認すると、文字だけでは分からなかったことが見えてくるのです。まさに百聞は一見にしかずです。

1. 苦林野古戦場の碑 (毛呂山町大字川角)
2. 女影ヶ原古戦場跡の碑 (日高市)
3. 小手指ヶ原古戦場の碑 (所沢市)
4. 久米川古戦場碑 (東京都東村山市)
5. 分倍河原古戦場碑 (東京都府中市)

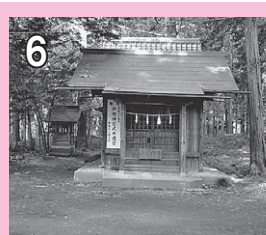
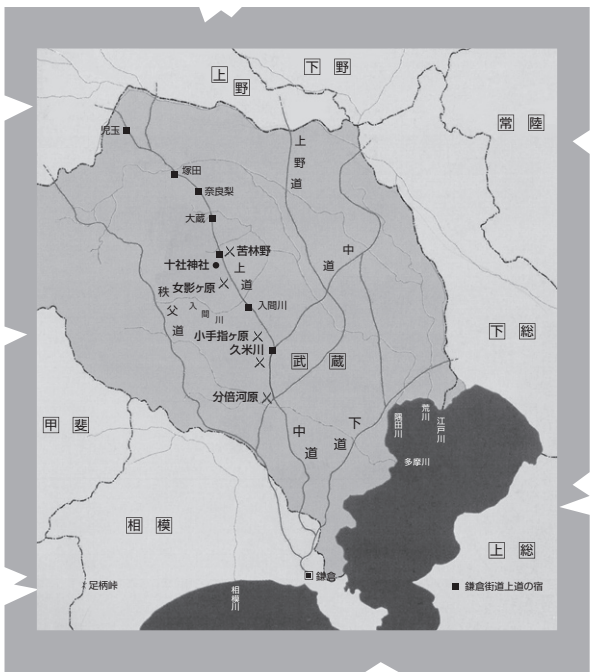


鎌倉街道上道には、このほかに古戦場があります。古の戦を想像しながらの散策も趣があります。

鎌倉街道上道には、このほかに古戦場があります。古の戦を想像しながらの散策も趣があります。

鎌倉街道が整備された目的のひとつは、軍事道路としての利用です。そのため、街道沿いでは多くの戦いが繰り広げられました。毛呂山町の玉林寺地区には苦林野古戦場の碑(写真1)があります。苦林野合戦は、1363(貞治2)年に鎌倉公方足利基氏と前越後守護代芳賀禪可が激突した戦いで、基氏が勝利しました。これにより基氏は関東統治の基盤を築きました。日高市霞野神社の境内には女影ヶ原古戦場の碑(写真2)があります。女影ヶ原の合戦は中先代の乱ともいわれ、鎌倉幕府第14代執権北条高時の子時行が1335(建武2)年、鎌倉幕府再興を期して挙兵。信州諏訪から鎌倉を目指し進軍した時行は、女影ヶ原で足利軍の渋川義季らを敗り、その後一時的に鎌倉を奪還しました。そして、鎌倉街道上道に関係する最も有名な武将といえば鎌倉幕府を滅亡に追いやった新田義貞です。義貞は1333(元弘3)年に挙兵し、鎌倉街道上道を南下し、鎌倉へと向います。その道程で、小手指ヶ原(写真3)、久米川(写真4)、分倍河原(写真5)で迎え撃つ幕府軍と激戦を行っており、現在、それぞれの地域には、古戦場碑が残されています。

つわものどもが夢の跡



十社神社 (毛呂山町大字大類)

大類地区にある十社神社の祭神は、苦林野合戦で戦死した金井新左衛門ほか九士の霊で、大薬寺の僧秀賀が祀ったと伝えられており、古くは十首明神と称したといわれています。

古戦場



鎌倉街道の起点

つるがおかはちまんぐう

鶴岡八幡宮 (神奈川県鎌倉市)

古道の楽しみ方入門

【古道を楽しむむ会】

古道を楽しむむ会といっても、特にこれといった方法があるわけではありません。思い思いに楽しむことが一番だと考えます。

ウォーキングが好きだからとか、色いろな人とおしゃべりをしたいからとか、夫婦で楽しめる趣味を見つけたからかなど、きっかけは様々までいいのです。その人なりの楽しみ方を見つけてもらえれば、すぐにも楽しめると思います。あえて付け加えれば、ほんの少し歴史に興味があれば、なおいいと思います。

例えば「鎌倉街道・上道」ですが、この道は古道のなかでも一番自然豊かな道だと思います。いつもと違った道を歩き、季節感を感じるにもってこいの道です。



「古道を楽しむむ会」は、古道を歩くほか、鎌倉街道の景観保護ボランティアも行っていきます。また、町外からの参加者もたくさんいます。古道に興味のある人は、歴史民俗資料館までご連絡ください。

【協力】 鶴岡八幡宮 (神奈川県鎌倉市)、東京都町田市・府中市・

国分寺市・東村山市、栃木県足利市、埼玉県所沢市・東松山市・

深谷市・狭山市・日高市・吉見町・嵐山町・小川町・ときがわ町・

美里町、毛呂山町歴史民俗資料館サポーター「古道を楽しむむ会」

【参考資料】 改訂版日本史⑨用語集 (全国歴史教育研究協議会編、

山川出版社)、古道を歩く―鎌倉街道歴史探訪― (埼玉県教育委員

会)、 「鎌倉街道」上道周辺文化財ガイドマップ (地域振興事業

実行委員会編)、新毛呂山町史、常設展示解説図録、鎌倉街道の

世界―古道から探る中世の世界― (毛呂山町歴史民俗資料館)

【鎌倉街道に関する問合せ】 毛呂山町歴史民俗資料館 ☎ 049-

2915-82802